

第 2 回 西川町立病院 改革評価委員会 会議録（整理版）

開催概要

- **日時：**令和 8 年 2 月 2 4 日（金曜日） 1 9 時から
- **出席：病院改革評価委員**
委員長：古澤勝廣、 副委員長：吉見愼太郎
委員：荒木弘、国井智恵子、阿部美代子、井上修一、高橋美保

町及び病院関係者

町長：菅野大志、副町長：内藤翔吾、健康福祉課長：石川朋弘
総看護師長：渡邊敦子

事務局（西川町立病院）

事務長：土田里香、事務長補佐：飯野晃、事務係長：服部敦嗣

- **主な内容：**
 - 令和 7 年度事業の取組実績報告
 - 令和 7 年度病院利用状況報告
 - 令和 8 年度の主要実施事業
 - 質疑応答
 - その他 西村山統合病院の現状、任期満了の報告 ほか

町長あいさつ（要点）

- 西川町の人口規模（5,000 人未満）で病院を維持しているのは全国的にも稀。
- 令和 6 年度は入院収益が大きく伸長。
- 令和 7 年度は若干減少するが「何とか持ちこたえている」印象。
- 小規模自治体でも病院経営は可能である事例として示したい。

委員長あいさつ（要点）

- 委員会発足から 2 年、今年度が任期の最終年。
- 実績が上向きであることを評価。
- 本日は集大成として議論し、事務局・町長とやり取りしたい。

報告事項（事務局）

(1) 令和 7 年度の主な取り組み

- 診療報酬の加算取得（医療 DX、後発医薬品、せん妄ハイリスクなど）
- 電子カルテ更新（医療 DX の推進による遠隔医療の拡大にむけて）

- 人材確保（技師職の増員）
- 転院斡旋事業の強化
- 医療 MaaS（移動診療）の運行準備

(2) 病院利用状況報告（概況）

- 外来・入院患者数は令和 6 年度が高水準だった反動で減少傾向。
- 冬季（12 月～1 月）に入院が大きく落ち込む。
- 2 月以降は病床利用率 70%前後で回復。これを維持したい。

(3) 令和 8 年度 主要事業

- 医療 MaaS 本格運行
- 理学療法士 1 名増員計画
- 予防接種のオンライン予約本格運用
- 中期の黒字化に向けた経営強化プランの継続（令和 9 年度 黒字化目標）

質疑・意見と主な回答（要点まとめ）

1. 診療報酬改定の影響による試算について

- 予算作成時（前年 12 月）と改定発表のタイミングが合わず、令和 8 年度予算には反映されていない。
- 基本報酬引上げは増収要素だが、人口減少で「収益の伸びは限定的」と予測。
- 詳細は改定後に試算し対応する。

2. 加算取得状況と漏れ防止体制

- 直近で 3 つの加算を届出済み。
- 研修や国からの通知を各部門で共有し、取り漏れ防止に努めている。
- 令和 8 年 4 月改定の説明会后、全体見直し予定。

3. 人材確保策

- 医師：常勤 3 名で維持。
- 看護師：採用が難航、任用職員 1 名増の見込み。
- 技師：レントゲン 2 名体制に増員、臨床検査技師も増員予定。
- 役職ポスト拡大や設備投資で働きやすい環境を整備。

4. ランサムウェア対策

- 採用したシステムはクラウド型でデータは外部保管。
- メール連携を分断し感染リスクを低減。
- ネットワークを基幹系とインターネット系で分離。
- 最新ルーターなど機材面も更新済み。
- 業務継続計画（BCP）を内部で検討中。

5. のってあべプラス（病院利用の促進タクシーとして運行）

- 申込 3 名、実利用 2 名。

- ・ 利用条件が厳しく利用拡大できず。
- ・ 寒河江市と西川町間の運行条件緩和案はあるが、病院の患者流出リスクもあり検討が必要。

6. 医療 MaaS の目的・影響

- ・ 「第 4 の診療室」として、移動困難な慢性疾患患者を支援。
- ・ 新規獲得より「患者数維持」が目的。
- ・ 看護師同行でバイタル測定・採血も可能、一般的なオンライン診療より踏み込んだ医療ができる。
- ・ 車両内診療も診療行為として認められるようになった。
- ・ 公民館等での複数同時診療も可能。

7. 患者減少の理由（総看護師長）

- ・ 令和 6 年度はコロナ・インフル流行で患者多数。
- ・ 令和 7 年度は感染症減少により入院が減った。
- ・ 現在は転院患者（骨折など）の増加で一定の患者数を確保。

8. リハビリ部門の状況

- ・ 現在 理学療法士 2 名で入院対応が中心、外来は限定的。
- ・ 来年度理学療法士 1 名増員予定で外来拡充を図る。

9. 高齢者ケア・救急搬送での病院との連携

- ・ ケアハイツとの連携事例（感染対応、救急同乗）への感謝の声。
- ・ 「病院があること自体が安心につながる」と評価。

10. 若者の健診（子宮頸がん検診など）促進

- ・ 若年層で受診しづらい実態あり。
- ・ オンライン予約・PR 施策の必要性が指摘された。

11. 「均てん化」という考え方

- ・ 「いつでも・どこでも・誰でも診てもらえる」
- ・ 医療 MaaS と合わせて地域全体で活用していくべきとの提案。

町長 締めあいさつ（要点）

- ・ この 2 年間、厳しい状況下でも病院が大きく変わった。
- ・ スタッフを信じ、必要な投資（電子カルテ、技師増員、役職ポスト拡大）を行ったことが効果につながった。
- ・ 病院を支える町の財源面も改善（企業版・個人版ふるさと納税で県内上位）。
- ・ 経営改善プランの 3 年目として順調で、令和 9 年度の黒字化を目指す。
- ・ 委員の任期満了へ感謝の意を述べた。